

高校1年生の皆さん！
第一ゼミナール塾長の石田清です。

憧れの高校生活はどうですか？

模擬試験、定期試験、実力試験など何回か試験があったかと思いますが、結果はどうですか？ 思い通りの成績でしたか？

すでに知っていると思いますが、**皆さんは2020年度入試改革の第1回目の受験生になります。**2020年は、皆さんが高3生になった時です。この学年で、大学受験に必要な英語4技能検定を英検、TEAP、GTECなどの外部試験として受験することになります。この得点が、センター試験に代わる「新共通テスト」と各大学毎の「二次試験」に加算されます。また、例えば推薦入試やAO入試での合格を目指していても、ほぼ全ての大学で4技能検定が義務づけられます。英語は一朝一夕で実力が付くものではありません。他の教科よりも長い時間が必要です。対策は立てていますか？ もう実践していますか？



「新共通テスト」は、国立大学の受験生はもちろん、多くの私立大学でも必ず受けて一定以上の得点が必要になります。推薦入試（学校推薦型選抜）やAO入試（総合型選抜）でも必要とされます。国語、英語、数学には一定程度の記述試験が課されます。昨年実施された試行テストでは、記述部分の平均点数は極めて低く、これまでのようなセンター試験対策では通用しないと思われました。理科、地歴・公民も単に知識だけでは得点できないタイプが多くなります。想像力、構成力が問われます。新共通テストは、早い段階から対策しないと合格ラインには届きません。



二次試験は、間違いなくこれまでよりも難化するはずです。

各大学は「アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）」を公表し、「思考力・判断力・表現力」を中心的に評価する試験を実施します。**与えられた複数の素材を受験生が編集・操作し、自身の意見を合理的に、説得力を持って記述するタイプになるはず**です。これまでの知識・技術を前提にさらに高度な出題となりますから、十分な対策なしには合格はあり得ないこととなります。私大入試も大きな変更が行われます。早稲田大学



政経学部では、「新共通テスト」の数学が義務づけられることになりました。英語、国語は相当量の長文を読解した上で、自らの考えを論述する試験となることが決まっています。



推薦・AOでも「新共通テスト」を必須とし、面接、論文、レポートなど、やはり思考力・判断力・表現力・人間力を問うタイプの試験が取り入れられます。

どの方式で合格を目指すにせよ、これまでよりも難化することは間違いありません。問題なのは、大学受験の先進地である東京など都会の中学生、高校生はすでに対策を始めているにもかかわらず、地方ではほぼ全く対策が取られていないことです。このままでは今でも大きい受験格差がさらに拡大するのではないかという危機感を持たざるを得ません。東大、北大などの旧帝大、国公立大学医学部、早慶・明治・青山などの有名私大を目指すならもう具体的な対策を始めなければなりません。

高校1年生の皆さん、2020年以降の大学入試の実際を知り、もう勉強を始めませんか？